

動画で地域包括ケア活動！にしくまチャンネルをご覧ください



地域に向け、リハビリ体操や健康情報を発信している YOUTUBE「にしくまチャンネル」！ プログラムも50本を超え登録者数もまもなく550人に達します。

昨年はリハビリスタッフや感染予防委員会等の院内だけでなく、南区まちづくりセンターやささえりあ富合、富合商工会など地域の皆様とも一緒にリハビリ体操等行いました。

今年も動画で地域包括ケア活動を推進できるように、地域を元気にするプログラムを提供して参ります。

一緒に参加して頂ける地域の団体様は、ぜひ広報担当までお声かけください。

にしくまチャンネルへは
右の QR コードからアクセス！



外来診療スケジュール

令和5年1月時点

		月		火		水		木		金		土
診療科		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
整形外科	一般	山口浩司	山口浩司	山口浩司		※手術	唐杉(熊本大学) (11時受付終了)	中島 (完全予約)	前田(熊本大学) (11時受付終了)	古閑 (熊本大学)	担当医	
		中島	中島 (16時～17時)	浦上(熊本大学) (11時受付終了)								
	ひざ専門 (完全予約)						林					
	関節・スポーツ	井上			井上		井上		井上		山口浩司	
	骨粗鬆症 (完全予約)								山口浩司 (第3木曜)			
内科	一般	篠原	本田	篠原		篠原		本田 (受付11時終了)		本田	担当医 (第5週目休診)	
					村端	村端			村端	村端		
		増田						増田				
		浦本		浦本						浦本		
糖尿病/代謝内科		篠原		篠原		篠原						
脳神経内科					村端	村端			村端	村端		
循環器内科				野津原 (熊本大学)							担当医 (熊本大学)	
呼吸器内科		浦本		浦本						浦本		
泌尿器科 ※完全予約								米納 (第24木曜)				
皮膚科 ※完全予約					山下 (16時受付終了)	山下			山下 (16時受付終了)			
麻酔科		柳下・小野田		柳下・小野田 ※手術	※手術	※手術	※手術	小野田 (術前外来)		※手術	小野田 (術前外来)	

診療予約について 網掛けのある診療科では予約制となります。診察予約は電話でも行っています。希望する診療科診察日の前日までにご連絡をお願いします（当日予約は出来ません）。予約状況によっては希望する日に診察予約が出来ない場合がありますので、予めご了承下さい。



熊本市南区富合町古閑 1012 Tel.096-358-1118 (代)

ただいま多数のお問合わせにより代表電話が混線しております。下記に御用の際は、直通電話をご利用いただくと助かります。ご協力よろしくお願いします。

- ◆(入院・介護相談等について) 地域医療連携室 096-277-1701
- ◆(老人ホーム・特定施設等) ホスピタウハウス 096-227-7287
- ◆(企業健診・人間ドック等) 健診センター 096-357-0435
- ◆(通所リハビリについて) れんげ草 096-358-6030
- ◆(ケアプラン等) 居宅介護支援事業所 096-358-6030
- ◆(採血・広報について) 担当 080-7743-7702
- ◆(治験・創薬ボランティアについて) 臨床薬理センター 0120-778-625



～いつも患者さんに寄り添い、強く、優しい、優れた病院をめざします～



にしくまだより

SPIRITS OF NISHIKUMA

Vol.100 WINTER

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

おかげさまで広報誌 100号目を
発行することが出来ました



ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
昨年中も当院に対し多大なご理解ご協力を賜り誠に有難うございました。

振り返ると、昨年も新型コロナ感染の波に影響され続けた1年でした。
第6波から8波まで大きな波を経験してきました。医療及び福祉施設内でのクラスター発生が連続しています。この冬、インフルエンザとの同時流行にも突入しました。ウクライナ侵攻は世界経済に追い打ちをかけ、物価高、品不足など私たちの身の回りにも変化を感じる年でした。

その中で当院では新入職員、特に複数の新しい先生方を迎え強く歩みを進めた年となりました。感染対策に翻弄され窮迫するときもありましたが、職員一人ひとりの頑張りやチーム医療で貴重な経験値を得ました。そして近隣の医療機関、施設の皆さまのご協力、ご支援を賜り1年を乗り切ることができました。心から感謝申し上げます。

今年はどういう年になるのでしょうか。新型コロナ感染対策においては社会的な行動制限は緩和され、明らかにターニングポイントに向かって進んでいるようです。世界的な非常事態は今年には脱する見込みのようですが、医療機関、高齢者施設での感染対策は自律を求められ、これからの継続した感染対策の在り方が問題となるようです。

働き方改革は着実に進み2024年には医師の働き方改革が本格始動することを受け、病院運営にも大きな転換を迎えます。医療を提供する側はもとより、医療を受ける側の意識改革を促すことも必要になってきます。私どもは基幹病院との連携も必須であり、細かな準備を進めなければなりません。

その中で当院では新年1月から新看護部長を迎え、より一層「寄り添って、質の高い医療を提供する」ことに取り組んでまいります。今年の秋に病院機能評価更新のための受審を控え、新しいリーダー達の下で職員が結束して取り組むこととなります。

苦しい経験の中で得たものを医療という社会貢献で表現したい。私たちにとても確かな良きターニングポイントの一年となるよう一丸となって進んでまいります。

今年も私たち、にしくまもと病院をよろしくお願いいたします。末筆ながら皆様のご多幸を祈念しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和五年 元旦
病院長 山口 浩司

SPIRITS OF
NISHIKUMA

連携施設のご紹介「社会福祉法人 和創会」

今回はにしくまもと病院に隣接している和創会 施設長 隈部 成宏様にお話を伺いました

施設のご紹介をお願いします

社会福祉法人和創会の原点は、平成7年春に特別養護老人ホームゆうとぴあを出発としてケアハウス、デイサービスなどの富合町での事業を中心に行っていました。

介護保険開始と同時に居宅介護支援事業所・ホームヘルプステーションを開始、その後平成17年に地域に根差した小規模の施設を目指し、民家を改修してのデイサービスいつものところを城南町隈庄に開設。平成18年に宇土市古里のJAバンク跡を利用してのデイサービスたんぼの家開設。平成19年に熊本南1地域包括支援センター（現在ささえりあ富合）市の委託事業として開設。平成20年に富合町廻江に小規模多機能居宅介護やかひより、特定施設彩を開設。その後、山鹿市においてデイサービス、有料老人ホーム、放課後等デイサービスの事業を行っています。

新たな取り組みとして、令和4年11月より熊本市内の子飼商店街において「スタジオ和創」を地域住民の方々が気軽に生活相談できる場所として開設し地域貢献公益活動を開始しました。事業継承・起業・遺言相談、外国人の相談について法人と関わりがある弁護士・司法書士・行政書士などの専門家が無料で対応しております。

また、土日はアートの展示やワークショップなどのイベントのフリースペースとしても貸し出しております。

施設長の好きな言葉など教えてください

実家が浄土真宗のお寺です。若いころは仏教が趣味とっていたのですが、現在は土日はお寺の仕事もしており、趣味から日常となっていました。

学生の頃から宮澤賢治さんの「雨ニモマケズ」※右記が大好きです。→私も「デクノボー」を目指しているのですが程遠い人生を歩んでおります。

東ニ病氣ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負イ
南ニ死ニソウナヒトアレバ
行ッテコワガラナクテモ
イトイヒ

北ニケンクツヤソショウ
ガアレバ
ツマラナイカラヤメロトヒ
...

ミンナニデクノポートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
ソウユウモノニ
ワタシハナリタイ

地域の皆様へメッセージを

社会福祉法人和創会の理念は「和顔愛語（わげんあいご）」です。『和やかな笑顔・やさしい言葉・おもいやりの心をもって「和」を大切に令和の新しい時代に地域社会、未来を創り出す』ことを目標として、介護サービスにとどまらず、地域での問題、一人一人の悩み事、心配事にしっかりと関われる社会福祉法人を皆さんと創り出して参りたいと思います。

にしくまだより100号によせて

100号の記念すべき時に施設紹介をして頂きありがとうございます。にしくまもと病院の富合町、県南地区における役割に私たちも支えて頂きながら30年近くの月日が流れております。共に富合町において歩ませていただいていたこと感謝申し上げます。



ゆうとぴあ玄関



ゆうとぴあ内観



特定施設入居者生活介護
彩（いろどり）



小規模多機能型居宅介護
やかひより



熊本市高齢者支援センター
ささえりあ富合

社会福祉法人 和創会
熊本市南区富合町
古閑 994-1
TEL 096-358-4117
FAX 096-358-0588



社会福祉法人和創会
施設長 隈部 成宏様

にしくもと病院 地域医療連携室の動きについて

昨年も新型コロナウイルスの猛威に晒され、私たちの生活環境も、病院の療養環境も様変わりしました。2020年1月に初めて国内で新型コロナウイルスを確認してから今年で4年目を迎えます。コロナと共存しながらも私たちにも少しづつ耐性はできつつあるのではと感じております。

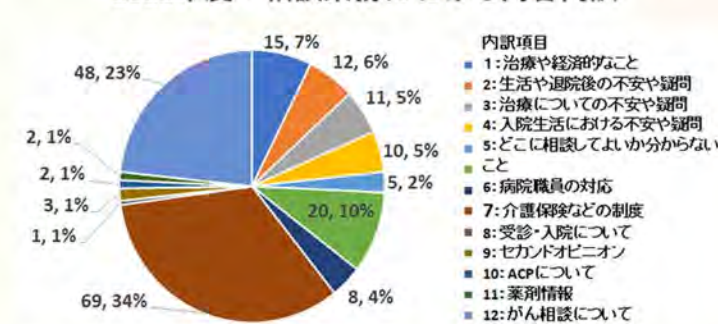
この期間に入院を経験された方はお分かりかと思いますが、外出・外泊はもちろん、家族との面会さえもままならない生活を送られていたかと存じます。多くのご苦労とご不安を抱えていたこととお察し致します。皆さまのお気持ちにお応えするために当院での現在の取り組みについてご紹介致します。

入院されてからのご不安・ご心配事・地域医療連携室に何でもご相談ください

当地域医療連携室では、入院された患者様やご家族様からの相談をお受けし早期に対応させて頂いております。

昨年は200件近くのご相談をお受けする事ができました。内訳は右図をご参照ください。

2022年度：相談業務における内容内訳



相談者も患者様・ご家族様だけでなく、たくさんの医療機関や地域包括ケアセンターからご相談をお受けしております。相談内容を吟味し、マネジメントしながら真摯に対応させて頂いた結果が次につながったと思っております。

患者様が入院される前からご相談をお受けし、しっかりと受け入れする体制を整えることは、コロナで制限の多い患者様の入院生活を支える上でとても大切でした。皆さまから、気兼ねなくご相談や苦情をお受けし、しっかりと向き合い対応させて頂ける病院を目指しております。

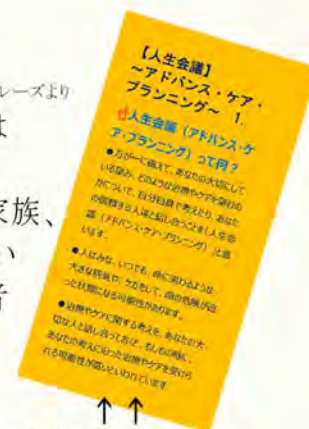
人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）について

皆さんは、これまで自身の最終段階について考えたことはありますか？ 人生会議とは「自らが望む、人生最終段階の医療・ケアについて話し合ってみませんか？」です。

にしくもと病院では現在、人生会議について取組みを始めています。患者様やご家族、入院されてこれまでであえて目を背けてきたこと、今更聞けない、そもそも私には関係ないなどと思われることがあるかもしれません。ただし考え方によっては、入院を機に医療者を交えて考えていくことができることはメリットかと思えます。

当院がかかりつけの病院なら主治医、顔なじみの看護師や介護士、リハビリスタッフなどを交えて大切な自分自身の将来に備えて、一度話し合ってみませんか。

※厚生労働省キャッチフレーズより



↑↑ 当院パンフレット

また自分の考えを一度紙に記してみるのもいいかもしれません。ただし、紙に書くだけでは人生会議にはなりません。その思いをしっかりと自分にとって大切な人に伝えることです。そのお手伝いをするのが当院ではできないのではないかと考えています。

当院で作成した用紙もございます。書きやすい方を選択して書き込んでみませんか？

これまでも、そしてこれからも皆様の近くでお役に立てるよう、何でもご相談頂ければ幸いです。

皆さまのご多幸をお祈り致します。本年も、よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 兼 看護副部長 宮内 真奈美



↑↑↑

当院 人生会議用 記入用紙

※ご希望の方は地域医療連携室までお知らせ下さい

就任のご挨拶

1月より看護部長として着任いたしました 皆さまよろしく申し上げます

2023年1月に看護部長に就任しました村本です。当院は今年創立35年を迎えます。これまで、林名誉院長や山口病院長の強いリーダーシップのもと、先駆的な地域包括ケアシステム「熊本ホスピタウン構想」を掲げ、変化に柔軟に対応しながら地域に根差した「手術のできる地域リハビリテーション病院」として、多職種チーム医療を実践しております。

私は奇しくも当院開院と同じ1988年に看護師の第一歩を急性期病院でスタートし、チーム医療や地域連携、入退院・療養支援に研鑽して参りました。

今後はにしくもと病院の一員として、地域の皆さまから選ばれる病院づくりと職員が誇りを持ち働き続けられる組織作りに取り組みたいです。

諸先輩方が築かれた「患者さんに寄り添う心」「質の高い医療提供を目指す向上心」「チーム医療の輪」を礎に、何事にも真摯に取り組む所存です。

これまでと変わらぬ暖かい連携とご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



看護部管理室 部長 村本多江子



おかげさまで約30年の歴史をかけて、当院広報誌が100号を創刊することができました。「にしくも通信」から「ホスピタウン便り」、そして現在の「にしくまだより」とタイトルや表紙もその時代を反映し、様変わりしております。こうして振り返ると、その当時の様子や制作担当者の苦労が伺えます。

1993年5月 Vol.1 1995年7月 Vol.13 1998年8月 Vol.30 2006年8月 Vol.53 2016年7月 Vol.82



↑↑ 時代を感じさせるモノクロ広報誌。創刊号を制作したスタッフもまだ在籍・勤務中！

↑↑ ホスピタウン便りとタイトルも変え2色刷でイメチェン職員数が増え始め新入職員の紹介も。

↑↑ カラー刷りとなって写真もたくさん掲載。健康や診療についての記事も多く掲載。

↑↑ 制作ソフトも手軽となって、職員で印刷も内製する。その為にかぎやかな紙面づくりに

↑↑ 写真が表紙全体を飾り配布先も連携医療機関・介護施設に向け発行。内容もそれに合わせる。

次ページではこれまでの広報誌を見ながら職員同士で30年の歴史を振り返る座談会を行いました

今回は当院広報誌100号を記念して、第一号発行責任者の林名譽院長と在籍年数トップ3の職員、そして院長を引き継いだ山口病院長・今年4月入職したばかりの新入職員の皆さんに集まってもらい座談会を行いました



(司会) 今回はお集まり頂き、誠に有難うございます。まずはそれぞれ自己紹介をお願いします

林名譽院長

私は病院開設3年後の1991年に赴任し、翌年4月に3代目院長として就任しました。そして1993年「にしくま通信」という広報誌を創刊したのが最初です。

当時は87床の老人病院で入院や外来の患者さんやスタッフも少なく、決して良い病院とは言えない状況でした。広報誌を作ったきっかけは、職員や地域の人たちに「にしくまもと病院」が「手術のできる都市近郊田園型のリハビリテーション病院」に変わっていく事を知ってもらいたいと思ったからです。



宮本看護師(勤続34年、以下宮本NS) 現在いる職員の中で、私が一番古株なんです(笑)。病棟看護師の宮本です。私は林先生よりも前の1988年に入職、病院の開業準備室の時代から勤務しています。勤続34年って自分でもびっくりですね。もう人生の半分をこの病院で過ごしていることになります。

紫垣看護師(勤続34年、以下紫垣NS) 通所リハビリに勤務している紫垣です。入職した1988年は就職難で、無資格・未経験で応募したら看護補助としてすぐ採用されました。あまり大きな声では言えませんが、当時にしきまもと病院は地域であり評判が良くなく(笑)、勤務している事を近所の人に言えませんでした。しかし、働きながら学校に行かせて頂き、病院から看護師の資格まで取らせて頂きました。

中村看護師(勤続30年、以下中村NS) 特定施設「ホスピタムハウス」看護師の中村です。1992年に入職しました。30年も経つと馴染みある患者さんも皆歳を重ねてきて、嬉しい反面寂しくもあります。



→創刊号を制作したスタッフもまだ在籍!

司会) 初期の広報誌に、中村NSは初代笑顔クイーン、林先生は初代笑顔キングとして表彰されていますね。

林名譽院長

まだ若かったので、色々なことにチャレンジしました。平成5年に米子のホスピタムに小田貢先生を訪問し、姉妹提携をして、平成8年からホスピタム交流会を毎年持ち回りで行い、神戸の大石真理子先生や出石の倉橋卓男先生や職員同士の交流を行いました。

また病院でお祭りをしたり、にしくまもと病院杯グランドゴルフ大会等を企画して地域の人たちとの触れ合いの場を増やしました。笑顔キングクイーン大会も、職員の接遇力やモチベーションをあげるためにやっとなと思います。

吉田OT

先輩たちの話を聞いて、倒産の危機とか、悪い噂で患者さんが少なかったとか、大変な時代があったんだと驚いています。

私は隣町で生まれ小さい頃からにしくまもと病院を知っていたし、親や祖母からも良い評判ばかりを聞いて育ちました。

OTになる時、地元で貢献したいと考え、この病院を就職先に決めました。でも今回、開設当時の苦労や困難を知り、それを乗り越えられた実績があって、今があるんだと感じています。

栗原NS

私もそんな困難があったのかと驚いています。私が入職を決めた理由は、従兄の(元)にしくま職員から勧められたからです。自分が満足していない人と勧めないと思います。それがあっても林先生や山口病院長、そして先輩の努力や功績だと思いました。

山口病院長

当時院長の林先生に声をかけてもらい、2009年7月ににしくまもと病院へやってきました。そして2019年林先生より熱い思いを引き継ぎ、現在院長として奮闘しております。入職前の広報誌については全く知らないもので、いろいろ教えてください。

吉田作業療法士(以下吉田OT)

今年4月新卒で入職しました作業療法士の吉田です。回復期リハビリテーション病棟に勤務しております。今日は先輩たちの話が聞けると思い楽しみにしてきました。

栗原看護師(以下栗原NS)

看護師1年目の栗原です。仕事もさることながら、これまでの病院の歴史についてもいろいろ教えてください。よろしく願います。

(司会) それでは、古株の皆さん(笑) 創刊号から最新号までの広報誌をご覧頂き、当時は振り返って思い出などお聞かせください。

林名譽院長

新しい人達は知らないと思うが、私が病院に赴任した時は、本当にひどかった。まず病院の看板が初代院長の達筆な楷書で書かれていて、判りにくかったので病院名をひらがなに変え、当時珍しかったロゴマークを職員公募で作し、リハビリ室や個室などハード面の改革から取り掛かりました。

バブル崩壊後の倒産の危機も、医療法人相生会、浦江隆次先生と出会い、小西淳二先生に理事長として来てもらって、何とか乗り越える事が出来ました。

CROSS X TALK

広報誌 これまでと これから

司会) 新しい世代に向けてメッセージを

中村NS

当初は60人位だった職員数も今では400人を超え、顔が判らない人も増えてきました。でも私は職員や利用者さんへ、積極的に話かけて、職場の雰囲気づくりに努めています。だから若い人たちがいろんな職員へ話しかけて、どんな病院を盛り上げてほしいか。新人さんも辛い事や壁にぶつかる事もあると思うけど、その壁を乗り越えなくてもいいから避けるなどして、辞めないでください。私みたいに続けていければ、絶対に良いことがあります。

紫垣NS

入職当時の就業規則では、永年勤続の表彰に10年20年はあっても、30年の設定はありませんでした。それだけ長く働く職員を想定しなかったんだと思います。しかし50年や100年(笑)と働き続けられる職場であつたらいいと思います。

宮本NS

働いていけば、辛いこともあります。私が林先生に愚痴を聞いてもらったみたいで、周りにやさしい先輩がたくさんいるので、みんな頼ってください。私も30数年この病院に勤め続けて本当に良かったと思います。

司会) 新人の皆さんはこれからどんな活動をやっていききたいですか?

吉田OT

今はまだ目の前の課題をこなすことで精いっぱい毎日ですが、面接時や入職した時を思い出して、患者さんとして診察するのはなく、一人の人間として歩まれた人生に寄り添っていく作業療法士になりたいと思いました。

宮本NS

当時は外来患者さんも少なく、入院患者さんが二三人の時もあった。そんな大変な中、結婚、出産そして母の死などプライベートな話も聞いてもらい励ましてもらいました。先生からの声掛けでなんとか苦難を乗り越える事ができたと思います。なので私も看護師の立場として、患者さんに寄り添って暖かい声掛けを心がけております。

山口病院長

皆さんの入職当時の話を聞かせて頂き、ありがとうございます。激動といっても過言ではないこれまでの活動が、ほんと現在の礎となっているのは間違いないと思います。私も林先生からこの病院に誘って頂いて、2014年関節外科センターを作り、人工関節置換術も1200人、症例数も1300件を超すまでになりました。2019年病院長を引き継ぐ時、どんな病院をつくりたいかと聞かれ、「日本一の病院」を目指すと答えたら、共感いただき同意してもらいました。この「日本一」にはいろんな捉え方があるのですが、「医療の質」だけではなく、患者さんからの「信頼」や「寄り添う気持ち」なども日本一を目指す。と考えると思います。今は皆さんとともに、その目標に向かって邁進中です。

紫垣NS

30年以上この病院と共に過ごしてきました。私の希望は70歳過ぎてもここで働き、その後「通所リハビリれんげ草」や老人ホーム「ホスピタムハウス」の利用者として、死ぬまで病院と関わらせてもらいたいんです。

林先生、山口先生ぜひよろしく願います(笑)



栗原NS 私現場に出て半年、想像していた以上に大変な日々を過ごしています。これから先輩方に看護についてスキルや心得を教えてください。経験を積んで、患者さんや同僚にも安心感を与えられる看護師になりたいと思います。

司会) 最後に名誉院長、病院長より、皆さんへ向けメッセージをお願いします。

林名譽院長

まずはこの病院を選んでくれてありがとう。私が平成5年より掲げてきた「ホスピタム」という言葉は、最期までいきいきと健康で住める街づくりという意味がこめられています。患者さんは、実際に入院している期間は短いので、その人の背景や家族なども把握し、柔軟な視点をもつ医療人になってください。そして、これからにしくまもと病院を支えてほしいと思います。

山口病院長

今日はこれまで病院の歴史を作られた林先生をはじめ、先人の皆さんそしてこれから歴史を作っていく新入職員の皆さんと一緒に話してきて良かったです。これまでの想いを受け、そして未来に向け新しい職員とともにその想いを引き継いで参ります。

日本一の病院づくりを目指して、地域の為に医療・介護・治療・健診を行っています。いきなりたいと思います。皆さんこれからも宜しくお願いします。

